

カールスタッド大学（スウェーデン）の博士研究員が当研究所を訪問しました (2026/6/8～20)

テーマ：気候リスクガバナンス、水資源管理、社会正義、防災・減災、環境的公正、地理空間情報学、学際的な防災研究

2026 年 6 月 8 日から 20 日にかけて、スウェーデン・カールスタッド大学の Dr. Mathilde de Goër de Herve 氏が、ボレー・ペンメレン・セバスチャン教授（インクルーシブ防災学分野）の招へいにより、東北大学災害科学国際研究所を訪問しました。

Dr. de Goër de Herve 氏は、カールスタッド大学リスク・環境研究分野の博士研究員であり、Centre for Societal Risk Research (CSR) および Centre of Natural Hazards and Disaster Science (CNDS) に所属しています。専門は干ばつや洪水を中心とした気候リスクガバナンスであり、社会の優先順位や意思決定が気候変動適応や地域レジリエンスの向上に果たす役割について研究しています。

滞在期間中は、ボレー教授とともに当研究所および東北大学学際科学フロンティア研究所（FRIS）の研究者との研究交流を行い、気候リスクガバナンス、水資源管理、社会正義、環境的公正、災害レジリエンス、地理空間情報技術、地域主体の防災・減災などをテーマに意見交換を行いました。

1. 災害マネジメント・防災教育・国際連携

まず、泉貴子教授（国際環境防災マネジメント研究分野）と面会し、当研究所と CNDS との今後の研究連携の可能性について議論しました。特に、防災・減災、防災教育、国際共同研究の推進に向けた意見交換が行われました。

2. 水資源管理・社会水文学・災害リスクガバナンス

続いて、小森大輔教授（水災害リスク研究分野）および永見光三教授（災害リスクガバナンス研究分野）との研究交流を実施しました。社会水文学、水資源管理、資源ガバナンスに関する研究を紹介いただくとともに、気候変動適応におけるレジリエンス向上と意思決定に伴うトレードオフについて議論しました。

3. 災害ジオインフォマティクス・避難モデリング・空間計画

マス・エリック准教授およびベスコボ・ルベン助教（共に災害ジオインフォマティクス研究分野）との意見交換では、GIS を活用した避難エージェントモデリング、洪水リスク管理、リモートセンシング、空間計画などについて議論しました。また、Dr. de Goër de Herve 氏は 2021 年ベルギー洪水に関する研究成果を紹介し、災害復興における地理空間情報技術の活用や、避難モデルへの社会的脆弱性の反映について意見交換を行いました。

4. 生態系を活用した防災・文化的景観

原裕太助教（2030 国際防災アジェンダ推進オフィス）との研究交流では、干ばつ、水資源管理、生態系保全、文化的景観に関する研究について紹介いただき、生態系を活用した防災・減災や気候変動適応に関する議論を行いました。

（次頁へつづく）

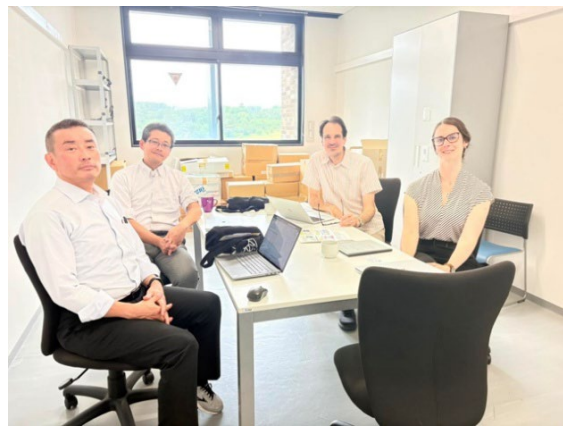
5. 環境的公正・社会正義・気候変動適応

最後に、東北大学学際科学フロンティア研究所（FRIS）において、柿沼薫准教授と研究交流を実施しました。環境的公正、ジェンダー格差、極端気象が健康へ及ぼす影響などについて議論するとともに、社会正義の観点から、定量的・定性的研究を組み合わせた気候変動適応研究の可能性について意見交換を行いました。

併せて、石巻市、仙台市荒浜地区、名取市、岩沼市において 2 日間の現地視察を実施しました。みやぎ東日本大震災津波伝承館、震災遺構仙台市立荒浜小学校、千年希望の丘、閑上地区復興エリアを訪問し、東日本大震災からの復興、防災・減災、地域レジリエンス、リスクコミュニケーション、沿岸域の復興、自然を活用した防災について理解を深めました。



泉教授（右端）と当研究所の前にて



小森教授および永見教授との面会



インクルーシブ防災学分野での発表



千年希望の丘（岩沼市）

Mathilde de Goër de Herve 氏（左）と
ボレー教授